

事例2 器楽分野の学習における「楽器の特徴を理解し、創意工夫して演奏する」事例

○学年 第1学年

○領域・分野 A表現 (2) 器楽ア、イ(イ)、ウ(ア)

○事例のポイント

- ①生徒の思考・判断のよりどころとなっている主な音楽を形づくっている要素は、【音色、旋律】である。
- ②思いや意図を生かした表現をするために必要な技能の習得に向けた活動を例示する。
- ③グループ活動を基盤とした主体的・対話的で深い学びの授業展開を例示する。
- ④音楽表現をする際の記録、また、全体で共有するためのICT端末の活用の例示をする。

1 題材名 アーティキュレーションの違いを感じ取り、アルトリコーダーの特徴を理解して演奏しよう(3時間扱い)

2 題材について

(1) 生徒の実態

生徒は様々な領域・分野の学習に意欲的に取り組んでいる。器楽分野においては、一年生の2学期からアルトリコーダーに取り組んでいるが、小学校でのソプラノリコーダーの学習において苦手意識がある生徒が多かったため、音階リレーなどのゲーム感覚で楽しみながら学習に取り組むことのできるような活動を行い、全生徒がスムーズにアルトリコーダーの学習に取り組むことができるように支援した。その成果もあり、リコーダーに対して苦手意識をもっていた生徒も意欲的に活動することができた。「喜びの歌」や「かっこう」の演奏についても曲想を感じ、フレーズの流れを意識して演奏することができた。しかし、アーティキュレーションやタンギングを工夫しながら、思いや意図をもって演奏するまでには至っていない。本題材では、リコーダーの楽器の特徴である、アーティキュレーションの違いによる表現の多様さや、タンギングの仕方による音色や響きを理解し、思いや意図をもって表現することに取り組む。

(2) 題材について

本題材は、アルトリコーダーを演奏する上で、アーティキュレーションの違いによる音色や響きの違いの特徴を理解し、創意工夫しながら表現をすることにより、アルトリコーダーの楽器の特徴を理解し、表現を工夫して演奏することを目指した題材である。2部合奏(二重奏)の楽曲を扱い、対話的な学習の視点から授業を展開する。

指導に当たっては、よりよい演奏のためにタンギング指導や腹式呼吸、息の吐き方、周りの音を聴くことを大切にできるようにする。また、工夫する上では「聖者の行進」という曲名をどのように捉え、どのような演奏にしたいかについて生徒一人一人が思いや意図をもてるようにしたい。

※今回はアルトリコーダーを用いて学習活動を展開しているが、学校の実態に応じてソプラノリコーダーを用いて同様に学習することが可能である。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材は、学習指導要領A表現(2)器楽ア、イ(イ)、ウ(ア)、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素として「音色」「旋律」を指導するものとする。

3 題材の目標

- (1) アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。〈知識及び技能〉
- (2) アルトリコーダーの音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫する。
〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) アルトリコーダーの奏法による音色の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。
〈学びに向かう力、人間性等〉


4 教材について

「聖者の行進」 (アメリカ民謡／浦田健次郎編曲)

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	器楽ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること 器楽イ(イ)楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解すること ウ(ア)創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けること	
〔共通事項〕	ア	音色、旋律
	イ	
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取りながら曲に対するイメージをもち、創意工夫する。 ・思いや意図をリコーダーで表現するための音色や響きと奏法との関わりを理解し、創意工夫を生かして演奏する。 	

6 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	知 アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。	思 アルトリコーダーの音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	態 アルトリコーダーの奏法による音色の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
1時	知 観察・発言・記述		
2時		思 観察・発言・記述	
3時	技 観察・聴取		

実践事例として活用しやすいよう、「事例のポイント」を記載しているが、本来は評価項目となる箇所である。
(P111 評価資料を参照)

7 指導と評価の計画 (全3時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 T : 具体的な発問 S : 具体的な生徒の姿	○指導上の留意点	事例のポイント ◎留意事項
1次◆リコーダーの奏法と曲の雰囲気や曲想との関わりを感じとる。			
1	○リコーダーの基本的な奏法を確認する。 ・姿勢の確認をする。 ・運指の確認をする。	○姿勢、右手の親指の位置、音を響かせる目標の位置など、細かなところまで意識したりできるようにする。	ポイント② ◎姿勢についての掲示物を見せたり、音を響かせる目標の位置に花を置いたりして、視覚的に理解できるようにする。クラス全体で一

編 P 88 指導計画作成の留意事項(1)

	<ul style="list-style-type: none"> ・腹式呼吸の確認をし、ブレスを深く吸うことを意識できるようにする。 ・基礎的な奏法を意識しながら、「喜びの歌」を演奏する。 ○様々な奏法と曲の雰囲気や曲想との関わりを感じ取る。 ・数名を指名して、「喜びの歌」を一人ずつ演奏し、アーティキュレーションの違いによる曲想の変化に気付く。 <p>T：同じ曲でも音色が違いますね。なぜでしょうか。</p> <p>S：・息の強さが違うから。 ・息の長さが違うから。 ・吹き方が違うから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの奏法について触れ、それぞれの奏法による「喜びの歌」を鑑賞し、曲の雰囲気や曲想がどのように変化したか個人で考え、それを基にグループで意見を交わす。 ・個人または全体で3つの奏法で「喜びの歌」を演奏する。 ○「聖者の行進」を音色に気を付けて歌ったり、演奏したりする。 ・A1とA2をそれぞれ階名唱で歌う。 ・リコーダーで演奏する。 ・慣れてきたらA1とA2に分かれて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の人の演奏を聴いて、同じ曲でも息の長さ、強さ、タンギングの仕方音色や曲想が変わることに気付けるようにする。 ○同じ曲でも人によっても様々な演奏の仕方があり、それぞれによりさがあることにも触れ、自分なりに工夫することの面白さにも関心をもてるようにする。 ○はじめは教師が3つの奏法で範奏をする。その後は、ICT端末の動画を見ながら考えられるようにする。また、終わったグループからその動画の音色を手本に聴き、実際に3つの奏法で演奏しながら考える。 ○階名唱で歌い、音の長さや強さ、切り方などによって、感じ方が違うことに気付けるようにする。 ○リコーダーで演奏するときも歌ったときのように演奏できるようにする。 	<p>つの音色をつくり上げられるような声かけを行う。</p> <p>ポイント①</p> <p>◎他の人のリコーダーの演奏を聴き比べることで、【旋律】の雰囲気や【音色】の違いを感じ取る。</p> <p>ポイント③</p> <p>◎グループ活動を取り入れることで、他の人の考えや音楽への価値観を知る機会を作る。また、自分の考えが思いつかない生徒は、他の人の考えから学ぶことができるようにする。</p>
<p>2次◆表現の仕方を工夫し、自分たちの思いや意図を生かして演奏をする。</p>			
<p>2 本 時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○リコーダーの基本的な奏法、3つのアーティキュレーションを確認する。 ・姿勢、運指、腹式呼吸の確認を行う。 ・3つのアーティキュレーションを意識して、「喜びの歌」を演奏する。タンギングも意識して演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時と同じように、姿勢、右手の親指の位置、音を響かせる目標の位置、周りの音を聴いて音色を合わせるなど、細かく確認する。 ○音域や求める音質に応じて様々な発音のタンギングがあることを伝え、実際に音で確認する。 ○アーティキュレーションの違いにより曲想がどのように変化するか、実際に演奏して、音楽で確かめる。 	

	<p>○表現の仕方を工夫して自分の思いに合った「聖者の行進」の演奏を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布し、奏法（アーティキュレーション・タンギング等）を工夫して「聖者の行進」を演奏することで、どのように雰囲気の変化するか確認する。 ・グループで楽譜にまとめ、曲にふさわしい表現で演奏する。 ・表現の仕方が決まったグループからA1とA2を分かれて演奏する。 	<p>○一人で音の違いによる雰囲気の変化を感じられるようにする。</p> <p>○模範演奏を聴いたり、全体で演奏したりしながら、奏法と曲想の変化についてのイメージを確認する。</p> <p>○楽譜はICT端末をグループに2つ用意し、タッチペンでアーティキュレーションを書き込めるようにする。</p> <p>○他のグループの演奏を聴いたり、ICT端末で作成した楽譜をICT機器で拡大表示して、更に自分たちの演奏の工夫に生かすことができるようにする。</p>	<p>ポイント④</p> <p>◎どのように表現しようと思ったのか記録用の楽譜を用意する。また、全体で共有するためにICT端末・ICT機器を活用する。</p> <p>ポイント③</p> <p>◎グループ（ペア）活動を取り入れ、他者から学ぶ機会を設けるとともに、主体的・対話的で深い学びにつなげていく。</p>
3	<p>○リコーダーのアーティキュレーションやタンギングを意識して、「聖者の行進」の演奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で考えた表現の仕方をもとに、各グループで演奏する。 ・グループごとに工夫したポイントを取り入れた発表をする。 	<p>○前時で考えた表現の仕方が難しく演奏に支障がある場合は、変更も可能とする。</p> <p>○グループごとに発表を行う。演奏の前に工夫したポイントを伝えるようにする。</p> <p>○曲にふさわしい表現の中でも多様な表現の仕方があることを感じ取れるようにするために、ICT端末でそれぞれの楽譜を確認しながら演奏をしたり、聴いたりする。</p> <p>○各グループが工夫した8小節に続き、クラス全員で9～16小節を演奏し、すべてのグループの演奏をつなげる。</p>	<p>ポイント④</p> <p>◎発表の際、どのように表現しようと思ったのかICT端末・ICT機器を活用して大きなスクリーンに映し、楽譜や工夫したポイントを全体で共有できるようにする。</p>

8 本時の学習指導について（2／3時）

(1) 目標

アルトリコーダーの音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。
 〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 展開

○学習内容 ・学習活動 T:具体的な発問 S:具体的な生徒の姿	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
<p>○リコーダーの基本的な奏法、3つのアーティキュレーションの奏法を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢、運指、腹式呼吸の確認を行う。 ・3つのアーティキュレーションの奏法の違いを意識して、「喜びの歌」を演奏する。 ・タンギングも意識して演奏する。 	<p>○授業の導入の活動（リコーダーの常時活動）では、前時で学習したことを振り返らせ、本活動につなげるようにする。</p> <p>○姿勢、右手の親指の位置、音を響かせる目標の位置、周りの音を聴いて音色を合わせること、息の量を一定にすることなど、細かく確認する。</p>

本時の目標

アーティキュレーションを工夫し、自分たちの考える行進曲にふさわしい演奏にしよう。

- 表現の仕方を工夫して自分たちの思いに合った「聖者の行進」の演奏を工夫する。
- ・ワークシートを配布し、アーティキュレーションやタンギングを変えて「聖者の行進」を演奏することで、どのように雰囲気の変化するか確認する。
- ・グループで楽譜にまとめ、曲にふさわしい表現に仕上げる。

- 音域や求める音質に応じて様々な発音のタンギングがあることを伝え、実際に音で確認する。タンギングとアーティキュレーションを組み合わせることで、より幅広い表現ができることを確認する。
- 模範演奏を聴いたり、全体で演奏したりしながら、奏法と曲想の変化についてのイメージを確認する。

<工夫する時のポイント>

- ①スタッカート、ノンレガート、レガートの3種類の奏法を組み合わせる工夫する。
- ②考えたアーティキュレーションや工夫したポイントを記入する。
- ③（行進している様子をイメージしながら、「〇〇の行進」のように題名も考える。
- ④8小節目までを工夫する。

T：みなさんのイメージする行進の様子を表現するためには、どのように工夫したらよいでしょうか。

S：行進する登場人物を考えたらどうかな。

：ウサギやカエルのように跳ぶ生き物はスタッカートで表現できるかな。

：速度は変えずに、ゆっくりな様子をレガートで表現しようかな。

：だんだんと行進している様子を変えていくのもおもしろいかもしれないな。

- ・表現の創意工夫の方向性が決まったグループからA1とA2とに分かれて演奏する。

○本時の目標を改めて確認し、振り返りをする。

- ・振り返りカードを記入する。

- ・振り返りを発表しあう。

○楽譜はICT端末(各グループに「聖者の行進」の楽譜が用意されており、記入するとクラス全体でも共有できるソフト)をグループに2つ用意し、タッチペンでアーティキュレーションを書き込めるようにする。

○話し合いや、表現の工夫に支援の必要なグループにはヒントカードを配り、曲の表現のイメージがしやすいようにする。

○他のグループの表現の工夫をタブレット上で共有できるようにして、自分たちの演奏に生かすことができるようにする。

☆**思** アルトリコーダーの音色や旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

(観察・発言・記述)

○より鮮明で響きのある演奏にするために姿勢、腹式呼吸、息の出し方、周りの音を聴くことにも気を配れるようにする。

○数グループ(ペア)を指名して、アーティキュレーションを工夫して演奏し、その特徴と曲想との関連について、全体で共有する。

○本時の目標をもう一度確認し、目標に対する振り返りができるようにするとともに、感じたこと、分かったことなども記入できるようにする。

○振り返りを発表させるとともに、自分自身やグループとの音楽活動を通じて、表現を工夫することのおもしろさをクラス全体で共有する。

9 板書計画例

<目標>

アーティキュレーションを工夫し、自分たちの考える行進曲にふさわしい演奏にしよう。

3つのアーティキュレーションで演奏しよう。
どんな感じがするかな

①スタッカート奏法



- ・軽い感じ
- ・はねている感じ

②ノンレガート奏法



- ・一音一音はっきりしている
- ・まとまっている感じ

③レガート奏法



- ・のんびりしている感じ
- ・なめらかな感じ

工夫する時のポイント

- ①スタッカート、ノンレガート、レガートの3種類を組み合わせる。
- ②考えたアーティキュレーションや工夫したポイントを記入する。
- ③「〇〇の行進」のように題名も考える。
- ④8小節目までを工夫する。

10 ワークシート例（生徒の記述例）

【「おおむね満足できる」状況（B）】

どのように表現するかについて、思いや意図とアーティキュレーションによる曲想の変化が結びついている。また、グループ（ペア）で話し合い、自分のイメージを膨らませたり、他者のイメージに共感したりして、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。

4班 「カエル」の行進

自分のイメージを表現するために、どの小節の、どのパートの音を、どのような奏法で演奏したか書きましょう。

1～4小節は、スタッカート奏法を入れたり、入れなかったりして、カエルが色々なジャンプをしているようにした。

5～8小節は、カエルがスイスイ泳いでいる感じを出すために、レガート奏法にした。

【「十分満足できる」状況 (A)】

どのように表現するかについて、思いや意図とアーティキュレーションによる曲想の変化が結びついていると共に、タンギングによる音色の変化にも注目して創意工夫している。また、グループ（ペア）で話し合ったり、実際に音で試したりしながら試行錯誤して協働的に学び、自分のイメージを膨らませたり、他者のイメージに共感したりして、どのように演奏するかについて具体的な思いや意図をもっている。

2班 「ウサギとカメ」の行進

自分のイメージを表現するために、どの小節の、どのパートの音を、どのような奏法で演奏したか書きましょう。

【4小節目まで】

A1はレガート奏法で始めの音はruの柔らかいタンギングで、カメがゆっくり走っている様子を表現した。

A2はスタッカート奏法でtuやtiの鋭いタンギングで、うさぎが軽やかに走っている様子を表現した。

【5～8小節目まで】

A1もA2もtuで同じタンギングをして、一緒に走っている様子を表現した。